



- 目次 ◆ 診療科紹介(泌尿器科) ◆ 浮腫(むくみ)について  
◆ 耳鼻咽喉科を4月4日より再開します

## 診療科紹介【泌尿器科】

泌尿器科部長 客野 宮治

泌尿器科とは、横隔膜から骨盤まで、さらにそのうちの腹膜外臓器を扱う科です。

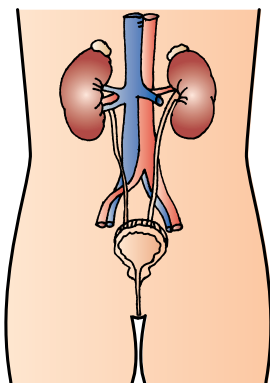
主に、腎臓、尿管(腎臓を膀胱の間)、膀胱、前立腺、尿道(膀胱から先)、それに精巣などが対象臓器となります。これらの臓器の、癌とか結石、炎症などが扱う病気です。現在当科で最も多い病気は、膀胱癌と前立腺癌です。

膀胱癌は、膀胱の粘膜にできる癌で、早期ならば、内視鏡で治療可能ですが、進行してしまえば、膀胱を摘出せざるを得ません。この間の落差は相当なもので、内視鏡手術なら腰椎麻酔で1時間程度

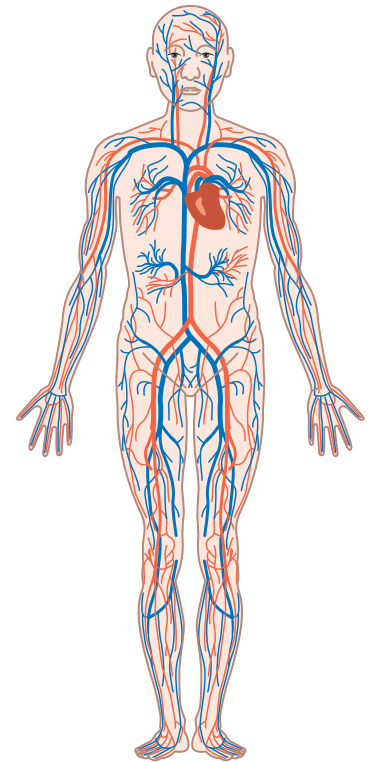
で、入院期間も数日ですみますが、膀胱摘出となると、全身麻酔で尿路変更まで含めて、7~8時間かかります。袋をおなかにぶら下げたりして生活も一変するので大変です。早期に見つけるに超したことはありません。早期の症状は、他に症状のほとんど無い、肉眼で分かるほどの血尿が主ですから、もし身に覚えのある人はできるだけ早く泌尿器科に行くことをお勧めします。

また前立腺癌は、近年非常に増えています。現在は、PSAの血液検査でスクリーニングができるようになっており、その値が高い人は前立腺生検で診断をつけます。この生検は、毎週何例か、年間40~50件程度と、ひっきりなしにやっています。診断がつくと、手術をするか放射線療法をすることになります。放射線療法は、設備が当院にはありませんので、他院に紹介して行っていただくこととなります。いずれにせよ、こちらでも早期診断をつけられると、治療によるダメージはそれだけ小さくて済みます。病気は、早期発見早期治療が鉄則です。怪しい人は直ぐにでも泌尿器科にいかれることを勧めます。

当科のもう一つの柱が、腎臓の移植で、現在まで60件程度施行しました。透析しなければ生きられない患者さんが、透析を全く気にしなくて生活できるようになりますので、生活レベルの改善は大きなものがあります。また、高血圧や動脈硬化のような、致命的になりかねない病態も改善しますので、寿命そのものが伸びる可能性が高いのです。こちらの方は、年間十何例もというわけにはいきませんが、着実にやっていきたいと思っています。



健常な成人において水分は体の最も多い構成成分です。体内の水分量は体重の約60%を占めます。通常その分布は細胞内液と細胞外液の2つに分けられます。細胞内液量は体内水分量の約2/3を占め細胞外液量は約1/3を占めます。更に細胞外液量の約2/3は組織間液として存在し血管内には約1/3が存在します。

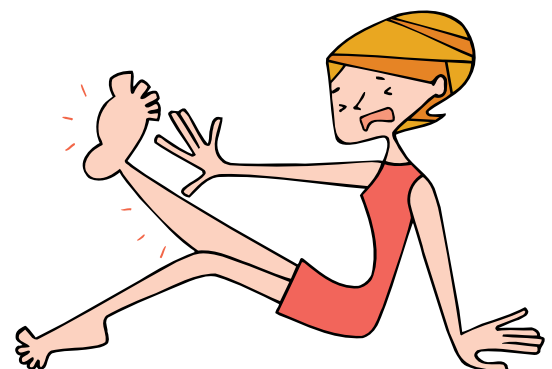


浮腫とは組織間液が何らかの原因で増加し組織間に水分が貯留することです。組織間に水分が貯留するので皮膚を指で押すと凹んだままで跡形が残ります。一方、肥満ではその様な跡形は残りません。よく起きる部位としては水分も重さがあるので下に溜まり下腿に多く現れますが、ひどい場合や原因によっては脚だけではなく、手指や顔面、全身に現れ内臓も水分で腫れます。



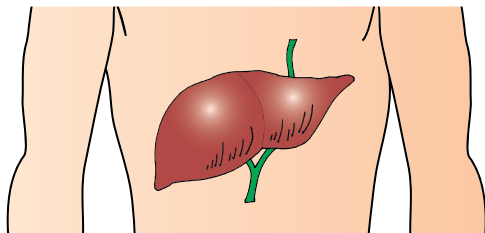
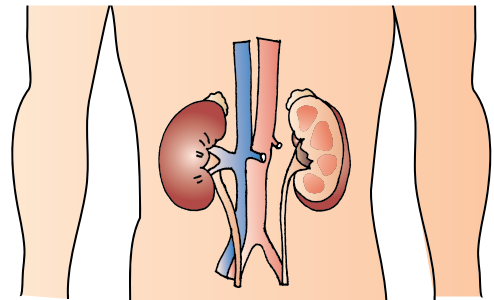
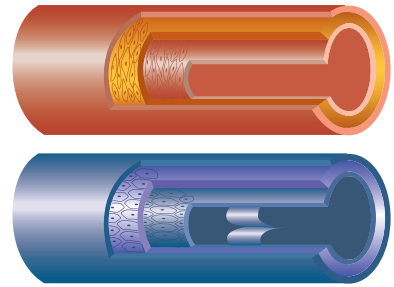
肺のところに水分が溜まると肺水腫や胸水となり正常な酸素交換が出来ず呼吸困難感が生じますし、腹腔に溜まると腹満感が生じ全身の怠さや満腹感が生じます。内臓にも水分が溜まると機能障害が生じます。この様に水分が溜まる場所により様々な障害を生じます。

原因も様々で一過性のものや治療を必要とする病気が原因のものがあります。一過性のものとしては、姿勢や長時間の立ち仕事によるものがあります。静脈には血液の流れを一方向にする為の逆流防止の弁があり、この為脚の血液は重力に引かれて下に留まらずに心臓へ帰って行くことができます。もしこの弁がうまく働かないと、血液は脚に溜まり、毛細血管の圧力が上がって、毛細血管から水分が周りの組織に漏れ出てしまうのです。衣服の締め付けによるものや、塩分の取り過ぎで、血管の壁の水分の通り易さに変化が生じたりしても浮腫は生じます。



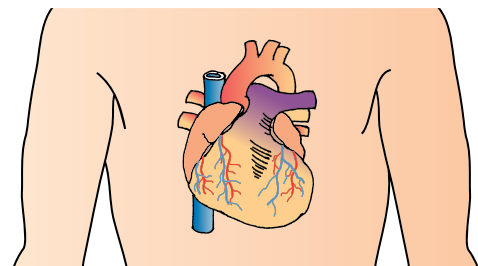
原因としては直ぐに取り除けるものですが、病気が原因の場合は診断、検査、治療が必要となります。

病気が原因の場合は腎臓、肝臓、心臓、甲状腺の異常やリンパの流れや血液の流れの異常、悪性腫瘍によるものがあります。主に腎臓、肝臓、心臓の異常によるものが多いですが、腎臓の異常では血管内に水分を留めておく物質が捨てられてしまい、血管内に水分を留めておく事が出来ずに水分が漏れ出てしまう為に生じます。



肝臓の異常で起こる浮腫は、その物質の産生低下等によることで、血管内に水分を留めておく事が出来ずに水分が漏れ出てしまう為に生じます。

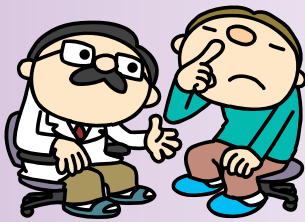
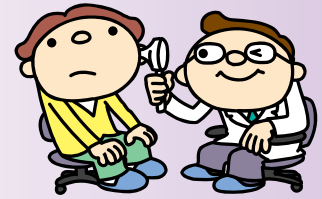
心臓の異常でおこる浮腫は血液を全身に送り出すポンプの役目である心臓の機能に障害が生じ体内の水分コントロールが不十分になる事が原因で起こります。心臓自身より低い位置にある血液を汲み上げるのは負担のかかることであり、脚に浮腫が生じることがあります。ただこの場合は夜に寝ている時や、姿勢を変える事で圧が変化したり心臓も自分の位置より低い血液を汲み上げる必要が無くなるので、時間により浮腫が生じたり、引いたりという事が生じます。ひどい場合になると臓器の水分の流れが悪くなるためにあらゆる臓器に水分が溜まることとなります。どの原因にしても病気が原因で生じるものでは自然には浮腫は軽減する事はあまり認められません。原因となる病気の治療も必要ですので、浮腫を認めれば受診する事が望ましいです。



## 耳鼻咽喉科紹介

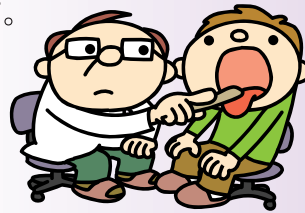
(耳鼻咽喉科を4月4日より再開します)

本年度4月より大阪船員保険病院で耳鼻咽喉科を開設させていただくことになりました、竹林・前田と申します。耳鼻咽喉科は人間の五感の視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚のうち3つの感覚器（聴覚・味覚・嗅覚）をあつかう科であります。また、多くの上気道の感染も鼻腔・口腔からであり、それに関わる疾患（上気道炎・鼻炎・扁桃炎・中耳炎・・・）等も専門としておりますので、なにかありましたら耳鼻科外来までお越しく下さい。



今回赴任させていただくにあたり、微力ではありますが、近隣の開業医の先生方と協力させていただき、港区の地域医療に少しでも貢献できるよう努力していくつもりです。はじめのうちは慣れないことも多く外来等で患者様・開業医の先生方にご迷惑をかけることも多いと思いますが、すこしでも早く軌道にのせて、待ち時間もなく、しっかり診療ができる体制をめざしますので今後ともよろしくお願い致します。

### 医師紹介



竹林 宏記  
(たけばやし ひろのり)

平成13年に兵庫医科大学を卒業し、同学耳鼻咽喉科教室に入局致しました。2年間の研修のあと大阪厚生年金病院に2年間出向し、その後大学に戻り鼻・副鼻腔チームで7年間働かせていただきました。昨年より再度大阪厚生年金病院で勤務しておりました。専門分野は鼻・副鼻腔疾患と嗅覚です。船員保険病院では、内視鏡を使用した蓄膿（慢性副鼻腔炎）の手術（内視鏡下鼻内手術）やアレルギー性鼻炎の手術を含む鼻全般の手術を行っていきたくと考えています。



前田 英美  
(まえだ えみ)

今年度4月より耳鼻咽喉科に赴任させていただくことになりました、前田英美と申します。平成20年兵庫医科大学を卒業し、平成22年兵庫医科大学耳鼻咽喉科に入局いたしました。大阪厚生年金にて1年間勤務の後、大阪船員保険病院にて勤務させていただくこととなりました。専門分野は味覚障害、舌痛症です。大阪船員保険病院での耳鼻咽喉科開設に立ち合わせていただくこととなり、大変光栄に思っております。竹林先生ともども、耳鼻咽喉科を盛り上げていけるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

発行

大阪船員保険病院／地域医療連絡室  
〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30  
TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713  
[http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei\\_tayori.html](http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html)

